

科学者委員会学協会連携分科会（第24期・第8回）議事要旨

1 日 時 平成31年4月12日（金）10時00分～12時00分

2 場 所 日本学術会議 6-A(1)会議室（6階）

3 出席者

米田雅子委員長、三成美保副委員長、石川冬木幹事（ビデオ出席）、
宮崎恒二委員、若尾政希委員、望月眞弓委員、菱田公一委員、
山口周委員、吉村忍委員、池田駿介委員、川口慎介委員、東村博子委員、
日本学術協力財団 谷口上席フェロー（オブザーバー）

4 配布資料

資料1 前回議事要旨

資料2 対外報告「学協会の機能強化のために」抜粋

資料3 提言「新公益法人制度における学術団体のあり方」抜粋

資料4 平成30年「理学・工学系学協会連絡協議会 意見シート回答の概要メモ」

資料5-1 シンポジウム「学術を発展させる法人制度に向けた提言～公益法人法10周年～」チラシ

資料5-2 提言「学協会に係る法人制度—運用の見直し、改善等について」

資料5-3 学術の動向 小特集企画案

資料6 「日本学術会議と学協会連携について（考察メモと参考資料）」

資料7 学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来 part2」
チラシ

5 議題

（1）前回議事要旨について

前回の議事要旨について確認された。

（2）平成19年対外報告「学協会の機能強化のために」の振り返り

資料2に基づき、池田委員から説明が行われた後、質疑応答及び意見交換が行われた。

（3）平成20年提言「新公益法人制度における学術団体のあり方」の振り返り

資料3に基づき、菱田委員から説明が行われた後、質疑応答及び意見交換が行われた。

(4) 平成 30 年「理学・工学系学協会連絡協議会 意見シート回答の概要メモ」の振り返り

資料 4 に基づき、米田委員長から説明が行われた。

(5) 平成 31 年提言「学協会に係る法人制度—運用の見直し、改善等について」について

資料 5－1 及び資料 5－2 に基づき池田委員から、資料 5－3 に基づき日本学術協力財団谷口上席フェローから、それぞれ説明が行われた。

(6) 「日本学術会議と学協会連携について（考察メモと参考資料）」

資料 6 に基づき、米田委員長より説明が行われた。

(7) 学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来 part2」について

資料 7 に基づき、米田委員長より紹介があった。

(8) 「学協会の今後のあり方」について

資料 2～6 をもとに、意見交換が行われた。

(9) その他

・三成副委員長（科学者委員会委員長）から学協会連携分科会に検討してもらいたいことについて、以下の通り話があった。

①協力学術研究団体の規定改正について

案を作成して科学者委員会へ提案してもらいたい。今期の中に科学者委員会で検討したいと考えている。

②研究者の定義について

学協会をベースにおいた研究者の定義を議論してもらい、科学者の定義についての提案も含めて科学者委員会へあげてもらいたい。今期の中に科学者委員会で検討したいと考えている。

③シンポジウムの開催について

学術会議と学協会のかかわり（がどうあるべきか）についてのシンポジウム（意見交換の場）を設けてもらいたい。

①及び②については各委員が検討し、次回会議にそれぞれ意見を出すこととなった。（8月5日までに事前に委員長に意見を提出することとなった）

・次回会議は、9月5日（木）10：00～12：00を予定している。

以上